

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に理念の唱和を入居者様の前で行い、職員間で理念の共有を図っています。	理念は「笑顔」「初心」「協力」の3つを掲げ、いつでも確認できるよう玄関や共有スペースに掲示し、また唱和する等で、初心を忘れず笑顔で日々の実践ができるよう「理念の振り返り」を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の回覧物が苑にも定期的にくるので、お茶の間会への参加の要請や、地域の避難訓練開催について等、地域住民として情報が得られるようになっています。	開設当初より希望者は地域のお茶の間会に参加し、つながりは継続されている。自治会に加入し地域の活動内容を一緒に話し合い交流を図っている。回覧物によって地域の情報が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、ご利用者の近況報告をさせて頂き、認知症の人への理解と支援についての話し合いが持たれています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	苑でのご利用者への関わり、取り組み状況を報告しながら、メンバーの方からのご意見を頂き、反映できるように努めております。	運営推進会議は地域の交番所長等、各代表が出席し、事業所の報告や話し合いが行われている。その際、生活の楽しみや生活の安全について情報共有がなされサービスの向上に繋げることを目指している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて苑での取り組み、実情を報告し、ご意見を頂いております。	運営推進会議のメンバーに地域包括支援センターの職員が入っており、市町村とのパイプ役となって協力体制が築かれている。また、市が主催する研修会へは積極的に参加し、その中で情報交換に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束についての講習会に参加し、日常的に拘束しないケアについての理解を深めております。	利用者本位の暮らしを支援するため、環境設定や車椅子の配置等、その都度職員に声掛けを行い、尊厳あるケアを目指し取り組んでいる。身体拘束の講習会へも参加し意識統一を図っている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての講習会に参加し、虐待についても、日常的に留意しながらケアに取り組んでおります。	職員は講習会等で高齢者虐待防止関連法の理解を深め、意識合わせを行っている。日々の関わりの中では、職員と一緒にゆったり過ごす時間を大切にすることで安心した丁寧な支援が行われている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、必要性に応じて制度を活用できるように、学ぶ必要があると考えております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居時に契約書と重要事項説明書で詳細をご説明し、同意を得ております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様から頂いたご意見、ご要望は随時反映させるように努めておりますし、苦情内容を頂いた場合は、運営推進会議でも報告致しております。	利用者の意見は日常の関わりの中から小さなことでも受け止め、職員で検討しサービスに反映させている。家族からの個別の要望は電話や面接時に対応し、工夫することで運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が、職員一人一人と面談を行い、意見や提案をダイレクトに聞く機会を設けています。	職員会議は年間計画表通りの実施は難しい現状であるが、代表者との面談の機会が設けられている。また、管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図り要望や意見を聞くよう心掛けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が、職員一人一人と面談を行い、各自が向上心の持てるような環境整備と自己研鑽を呼びかけ、給与面や労働時間の改善についても面談を通じて、聞く機会を設けております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の目の届きやすい場所に研修案内を置いています。その他の研修依頼もあるので、その都度、相談に応じ、職員からの研修への意欲を大切にしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に各事業所の管理者が集まって意見を交流する場があり、参加しております。職員同志の交流の場も年1回計画的に行っております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に、ご本人、ご家族様に意見を頂きながら、ご本人、ご家族様共々安心して生活ができるように心がけております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に、ご本人だけでなく、ご家族様からのご意見も大切に伺いながら、ご本人を共に支援させて頂く心構えをお伝えしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に、現在のご本人の状態に応じ、受診対応をご家族様に依頼しております。連携医の往診対応や、他の医療機関に入院となるケースもあることをご説明しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者に生き生きと共同生活を送って頂く為に、それを支える立場にある事を意識しながら、より良い関係作りに努めております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用状況報告と苑だよりを毎月、ご家族様へ発送し、その中で、苑の行事への参加を呼びかけております。ご利用者からもご家族様に連絡できるようにしております。	定期的に「たばたまちだより」や利用状況報告を家族に発送し、行事の案内や参加の呼びかけを行っている。常に利用者・家族の思いを受け止められるよう関係性に配慮しながら、職員間で検討し支援にあたっている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人やご友人が面会に来られ外出されたり、馴染みの定期市に買い出しに出かける等したり、ご利用者の希望や、思いを大切にしたい支援に取り組んでおります。	家族や友人と一緒にレストランで食事をしたり、また、離れている愛犬に逢いにいたり、馴染みの定期市の買い出しに出かける等、その人本位の継続的な支援がなされている。日頃のコミュニケーションから希望や思いを大切にし、これまで本人が築いてきた関係が継続するよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格や特徴を把握し、集団の中で孤立せずに、その方らしく生活が営めるような支援を心掛けております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入居となり、退居後もご家族様から連絡を頂いたり、ご本人にお会いする機会を設けております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の生活歴、馴染みの暮らし方や、その方らしい生活ができるような支援を心掛けております。1対1の対話から、その方に添ったケアが提供できるような取り組みを行っています。	入居の際や入居後には、本人の希望する生活が確認できるよう一人ひとりに合ったコミュニケーションを日ごろから心がけ、本人の思いを知るよう努めている。また、その思いが実現できるよう支援計画に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者の生活してこられた背景にあるその方の役割が見つけられるような取り組みを行っております。1対1の対話方式での積極的傾聴を継続的に実践していきたいと考えています。	日々の生活場面において、一人ひとりとのコミュニケーションの機会を大切に、何気ない会話の中からも今までの暮らしぶりを理解し、また地域活動の参加などを通じて理解しようと努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者を理解し、心身共に健やかで、その方らしく生活が送れるように心がけております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成は、計画担当の介護支援専門員が、本人やご家族の意向を反映したものになるように努めております。	家族や本人から生活に関する思い、また支援に関わっている職員からも日々の生活の様子を確認し、医療関係者との連携も図り支援計画を作成して。実施状況の確認、評価を生かし、次の計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の状態や経過は、個別記録に随時残していき、職員間での申し送りを行いながら、情報の共有を心掛けております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者からの顕在的なニーズに対応するだけでなく、潜在的なニーズに触れるような取り組みを実践し、柔軟な支援を心掛けております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	苑の中だけでなく、地域の催しにも参加して頂き、また、地域のカフェでご利用者の誕生会を開催する等、地域資源をご利用者が活用できる取り組みを心掛けています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が、当苑の連携医である場合は、苑対応にて受診、又は、医師に往診して頂いております。	入居時、状況変化による随時の希望においてかかりつけ医を決定している。利用者の半数は事業所の連携医であり、利用者の状況に応じ往診の依頼ができるよう連携が図られ、安心できる生活の実現に努力している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	信頼できる苑の看護師とは、常に情報の共有を図り、指示を仰ぎながら、職員全体でご利用者の健康管理に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された場合は、医療機関や、ご家族と退院の日時等の連絡を行い、退院時の状態報告についても把握し、早期の退院に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	苑として、重度化対応や終末期ケア実践の取り組みを行い、ご本人やご家族の意向を確認しながら対応しております。連携医にも協力体制を頂きながら、重度化、看取りについて、まだまだ不十分ではありますが、対応できるように努めております。	重度化対応のケア、終末期ケアについての社会的要請からも、施設の取り組みとしての方針は共有されており、職員全員が順次外部研修に参加するなど学習が進められており、専門的ケアが実践できる体制づくりに努めている。	今後も外部、内部研修会等で職員の専門性の研鑽を図り、地域連携、職場内での十分な話し合いや検討を重ねながら重度化や終末期の利用者に対応したチームケアの体制づくりと実践を期待したい。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時に備えたマニュアルを作成し、職員間で対応できるように努めております。	当該医療職者が作成した緊急時、事故時対応マニュアルが準備されており、それをもとに全員が実施できるよう学習、準備がされている。よりよいケアの実践に繋がるよう努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、地域の避難訓練に参加し、災害時の緊急避難場所と避難方法を職員全体で把握しています。	定期的実施される地域の避難訓練には体調を考慮しながらも利用者全員と職員が参加している。また施設単独での火災訓練を年1回実施し、災害時に備えての備品等を準備しているなど、利用者への安全な生活への取り組みを行っている。	利用者の心身の状況、ケアの体制、環境面等を考慮すると、今後は職員のための避難体制ではなく、地域の協力が必要と思われる。地域の協力体制が構築された災害マニュアルの作成と訓練の実施が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の性格、生活歴、職歴等を把握し、その方の役割や背景に目を向けた取り組みを行い、職員間でも情報を共有しております。	日々の支援を行いながらも、常に利用者の尊厳、プライバシーへの配慮を心掛けています。加えて、管理者による技術指導や職員同士による声かけなども行われ、必要な環境整備、ケアの方法などの研鑽を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が希望されることに応えていくように努めることで、思いを職員へ伝えやすい環境作り、ご利用者との信頼関係の構築を図っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	苑の都合やきまりを優先するのではなく、ご利用者の意向に合わせて、臨機応変に対応しております。その日の気分に合わせて、急な外出希望に対応することもあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪を依頼し苑内で実施したり、地域の美容室利用や、その方の馴染みの美容室にご家族がお連れしたりもしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、日常的にご利用者と一緒に行っています。メニューは職員が作成し、その日の献立は決まっているが、その日でも希望があれば、メニューを変更して対応する事もあります。	利用者より野菜の皮むぎ、味付け、魚の下ごしらえなどの準備をできる範囲で参加してもらい、役割感や楽しい活動となっている。また季節の食材を生かした献立や台所からの調理の音や匂いは、食事への楽しみを得られる環境となっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録に残し、栄養状態を把握し、一人一人の嗜好や禁止食材を情報として職員間で共有しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施は習慣化し、定着しております。うがいは、殺菌効果のあるお茶で実施しております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から状況を観察して、一人一人のペースに合わせた声掛けと、適宜介助を行っております。	個々の排泄パターンを職員が共通認識し、状況に合わせてトイレに誘導、排泄の手伝いの支援が行われている。またプライバシーへの配慮、トイレでの排泄の自立を目指した支援を日々研鑽している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で個々に排便状況を把握し、食事、水分摂取量に留意しながら対応しております。処方の下剤投与だけでなく、個々に乳酸飲料等を好みに合わせて提供している方もおられます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前、午後の入浴を実施し、入浴を拒否された場合は、無理強いせず、他の方法にて清潔の保持に努めるようにしております。なるべく、その方が入浴したいと思えるタイミングを留意した声掛けを行うようにしています。	決められた入浴の日時の中でも気持ちよく入浴してもらうために、菖蒲湯など季節に応じた変わり湯を提供し、楽しんでもらえるように工夫している。また利用者の思いを大切にしながら、心地よく入浴してもらえようとお誘いするタイミングを工夫するなど、個別の対応が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜共にその方に合わせたケアを心がけ、寝たきりにはならないよう、メリハリのある生活の支援を心掛けております。夕方の足浴も、安眠に繋げる支援として、継続しております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理は、苑の看護師が主体で行い、看護師からの申し送りを職員間で共有しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や、職歴等を把握し、その方が得意とされている事等をさりげなく提供する事で、苑での生活において、個々の役割が持てるような支援を心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望がある場合は、すぐに対応できない時もありますが、なるべく、その日の希望に合わせて、急に外出して、楽しんで頂く事もあります。	施設周辺を介護者が付き添っての日常の散歩や、家族との外出、買い物等、個々の希望に対応した外出支援が行なわれている。また家族と合流しての外出や誕生会を地域のレストランで実施するなど、さまざまな機会を設け日常生活の楽しみに繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で使用できる金銭は、苑で管理しておりますが、買い物等で個人が必要な買い物は、随時、行える仕組みは整えております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から、ご本人に電話がきたり、ご本人からご家族へ連絡したいと申される場合等、気軽にやり取りができるようにしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人の馴染みの環境に合わせたものとし、共有スペースは広々と開放的に整えられた環境となっております。	木目がある室内の引き戸や冬季に置かれる炬燵など、日本の風土や習慣にあわせた空間づくりがなされている。また、対面式の台所からは調理の臭いや音が聞こえ、生活感のある安心した空間づくりの工夫がなされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーは、食事スペース、リビング、畳の間があり、用途に合わせて入居者がどこで過ごすかを自己決定できるようになっております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、馴染みのある物や家具等を準備して頂き、その方に合わせた環境作りを心掛けております。	家族や本人の意向の下、好みの家具、家族写真、小物などを取り揃え安らぎの空間づくりが提供されている。また安全な移動のために家具の配置にも配慮し、個々に対応した居心地の良い生活空間の工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の生活習慣や生活歴を考慮し、なるべく今までの生活を無理なく継続できるよう、環境設定を工夫し、さりげない介助にてご利用者を支援するようにしております。		